**平成27年度 宮崎県学校体育研究発表大会日南・串間地区大会 研究計画**

**１　研究主題**

**（１）全体会主題（平成26年度～28年度）**

|  |
| --- |
| **「生涯にわたって運動に親しむ児童・生徒の育成を目指す体育・保健体育学習の在り方」****～発達の段階に応じた“わかる”“できる”“かかわる”授業の創造と展開～** |

**（２）部会主題**

|  |  |
| --- | --- |
| **小学校** | 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して　～ |
| **中学校** | 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる保健体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して　～ |
| **高等学校** | 豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる保健体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して　～ |
| **特別支援教育** | 運動の楽しさを実感できる発達の段階に応じた体育科・保健体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる授業を目指して　～ |

**２　研究主題設定の理由**

**【社会の現状】**

　グローバル化の進展などにより世界全体が急速に変化する中、我が国は、産業空洞化や生産年齢人口の減少など深刻な諸問題を抱えている。特に東日本大震災の発生は、この状況を一層顕在化・加速化させた。日本における「人の絆」や基礎的な知識技能の平均レベルの高さなど様々な「強み」を踏まえ、成熟社会に適合した社会モデルを構築することが求められている。そのような中で決定した２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定は、日本中で、これからの体育・スポーツへの関心を高め、期待が高まっている現状である。

**【期待される教育の役割】**

　今後も進展が予想される少子化・高齢化を踏まえ一人一人が生涯にわたって能動的に学び続け、必要とする様々な力を養い、その成果を社会に生かしていくことが可能な生涯学習社会を目指し、社会全体の今後一層の発展を実現する基盤となることが教育の役割である。

**【健やかな体の育成に関する現状と課題】**

　児童・生徒の現代的な健康課題が多様化・深刻化しており、望ましい生活習慣や食習慣を身に付けさせるための指導の充実が喫緊の課題となっている。一方、子どもの体力は、おおむね低下傾向に歯止めが掛かってきているが、昭和６０年頃と比較すると、基礎的運動能力は低い状況であり、また、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められていることから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が課題である。

　本県の児童・生徒の体力・運動能力については、経年比較をみると、過去１０年間では、新体力テストのほとんどの項目で上昇傾向を示しており、全国的な課題である中学校女子、高校女子においても向上してきている。今後、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基盤を培う授業の一つとしての学校体育の在り方に視点をもつことが課題である。

**【主題設定の理由】**

　このような実態を踏まえ、学習内容を定着させるために「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」が相互に密接に関連していることに留意した指導方法の研究を進めることにより、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができると考えた。

そこで、本研究における研究主題を「生涯にわたって運動に親しむ児童・生徒の育成をめざす体育・保健体育学習の在り方」と設定した。

運動の行い方や練習の方法などが“わかる”、できなかったことや合理的な動きが“できる”、仲間や教材・教具などに“かかわる”ことを相互に結び付かせることで、よい学びのサイクルや実感を生み出し、それが“わかって楽しい”“できて楽しい”“かかわって楽しい”という内発的動機づけとなり、豊かなスポーツライフにつなげることができると考える。

そのために、体系化され明確となった指導内容の確実な定着が図られるよう、各校種や発達の段階の接続を重視した系統的な授業や、指導と評価の一体化を踏まえ一層の指導方法の充実を図った授業の創造と展開を行っていく。

また「技能」「態度」「知識、思考・判断」の内容を児童・生徒の側からとらえ、「知識、思考・判断」を“わかる”、「技能」を“できる”、「態度」を“かかわる”と定義し、研究主題の具体的な視点として、サブテーマを「〜発達の段階に応じた“わかる”“できる”“かかわる”授業の創造と展開〜」と設定した。

**３　研究の進め方**

|  |
| --- |
| 　県学体研研究部では、小学校・中学校・高等学校の１２年間の体育・保健体育学習を通して、学習内容の確実な定着をめざし、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童・生徒を育てるための具体的な実践を行う。そのために、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各研究部会や開催地区研究部との連携を図りながら、「技能」「態度」「知識、思考・判断」といったそれぞれの学習内容がバランスよく確実に身に付くよう「指導者が児童・生徒の発達の段階に応じた系統的な授業をいかに展開していくべきか」という「つながりのある学習」を求め、主題に沿って同じ視点をもちながら研究を進めることとする。 |

※『つながりのある学習』とは？

『つながりのある学習』における、“つながり”は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校、そして特別支援教育の１２年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点をもちながら授業を展開することである。

　　「技能」、「関心、意欲、態度」、「知識、思考・判断」の指導内容を、児童・生徒に確実に身に付けさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童・生徒像を明確にし、共通認識をもちながら研究を進めていく必要がある。

**４　研究の仮説**

|  |
| --- |
| 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における、体育・保健体育の学習内容の確実な定着を目指し、心と体を一体としてとらえ、児童・生徒の発達の段階に応じた“わかる”“できる”“かかわる”指導と評価の工夫を行えば、“楽しさ”を実感し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現できる力を培うことができるのではないか。 |

**５　研究の構想**

|  |
| --- |
| 生きる力 |
|  |
| たくましい体　豊かな心　すぐれた知性 |
|  |
| めざす児童・生徒像 |
| ○　各種の運動（種目）の楽しさや喜びを味わいながら、身体能力や体力を身に付けようとする児童・生徒(体)○　自らの学習状況を適切に振り返り、課題解決に向けて自ら考え工夫しながら積極的に挑戦し、ねばり強く努力をする児童・生徒（心）○　自分や仲間の力に気付き、運動の行い方や科学的な知識を理解しようとする児童・生徒（知） |
|  |
| 研究の基本方針 |
| ○　豊かなスポーツライフの実現をめざし、生きる力の育成を目指した体育・保健体育学習の在り方を研究推進する。○　小学校・中学校・高等学校の接続や系統性を考慮し、発達の段階に応じた体育・保健体育学習の在り方を研究推進する。○　「技能」「態度」「知識、思考・判断」の内容に加えて「体力の向上」につながる体育・保健体育学習の在り方を研究推進する。 |
|  |
| 研　究　主　題 |
| **「生涯にわたって運動に親しむ児童・生徒の育成を目指す体育・保健体育学習の在り方」****～　発達の段階に応じた“わかる”“できる”“かかわる”授業の創造と展開　～** |
| 小学校 | 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して　～ |
| 中学校 | 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる保健体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して　～ |
| 高等学校 | 豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる保健体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して　～ |
| 特別支援教育 | 運動の楽しさを実感できる発達の段階に応じた体育科・保健体育科学習の在り方～　「わかる・できる・かかわる」を実感させる授業を目指して　～ |
|  |

|  |
| --- |
| 研　究　仮　説 |
| 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における、体育・保健体育の学習内容の確実な定着を目指し、心と体を一体としてとらえ、児童・生徒の発達の段階に応じた“わかる”“できる”“かかわる”指導と評価の工夫を行えば、“楽しさ”を実感し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現できる力を培うことができるのではないか。 |
|  |

|  |
| --- |
| 研　究　内　容 |
| 1. **学習内容の確実な定着を図る指導方法・評価の工夫**
2. 学習資料の意図的･計画的な活用
3. **「技能」「態度」「知識、思考・判断」のバランスのとれた効果的な指導の在り方**

イ．関わり合いを大切にする授業展開 |